OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	胃内視鏡検査
Author(s)	早田, 敏
Citation	癌と人. 1981, 8, p. 20-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24201
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

胃　内　視　鏡　検　査

早　田　　敏*

—胃内視鏡の歴史—

消化器内視鏡検査の歴史は，生体の奥深く隠されている臓器の変化をなんとか“見たい”という願望から始まりました。古く1868年，硬式胃鏡が作成され剣呑師の胃内に挿入することに一応成功して以来，いろんな工夫がなされて来ました。中でも画期的な試みは，光と画像を伝達するために長い光学硝子線維（ファイバー）を使用したことで，1957年胃ファイバースコープとして初めて報告されました。我国では1963年初めて胃ファイバースコープが発表されました。以来精密光学機械分野の優秀さと他の国に比べて胃癌に代表される胃疾患の多いことにより，胃内視鏡自体も又その検査技術も急速に進歩してきました。現在，内視鏡分野では一歩も二歩も世界に先駆け，世界のリーダーとなっています。

—胃内視鏡の種類—

胃癌を初めとする消化器病の診断において，内視鏡検査はX線検査と共に最も重要な検査法の一つです。しかも種々の機種の開発により，検査の適応疾患も増え，今後ますます検査の頻度も増加してくるでしょう。現にある病院では胃の集団検診にX線検査ではなく，胃内視鏡検査を導入しようという試みもされています。

現在胃内視鏡には大きく分けて3種類の型があります。直接胃の中に入るのは約1cm径の細長い管で，その先端に胃壁内を観察出来るレンズが取り付けられています。そのレンズが管の先端に真直ぐに付いているのが前方直視型，先端に斜に付いているのが斜視型，管の横に付いているのが側視型です。各々の機種では胃壁の観え方が異なり，胃の形，病変の部位，大きさ，検査目的により一番検査に適した機種を選んでいるわけです。

—胃内視鏡検査の実際—

胃内視鏡検査はまず前処置から始まります。胃には蠕動運動があり，特に胃内に物が入ると活発に動き始め観察が困難であるため，前もって胃の動きを止める筋肉注射を行ないます。ついで胃内の泡を消すために少量の消泡剤を飲みます。内視鏡を飲む時の反射と痛みをなくすために4～5回スプレーで喉の麻酔をします。これで内視鏡検査の準備は終りです。内視鏡は喉をすぎると抵抗なく胃まで達し，空気を送り込んで胃をふくらまし，胃壁内の観察，写真撮影が始まります。胃の観察，写真撮影は何も病変がなければ約10分足らずで終ります。はっきりした病変があれば，写真撮影を終えた後，直視下生検を行ないます。直視下生検とは内視鏡の中に細長い鉗子を挿入して病変の組織を採取してくる方法です。採取した組織片を顕微鏡で観ることにより病変が良性であるか，悪性であるかが判定出来ます。胃内の操作が全て終わると内視鏡を一気に抜去し検査は終了します。検査担当医師は撮影したフィルムを現像し，それをもとにして検査時気付かなかった病変が撮影されていないか，病変があればそれが良性のものか，悪性のものか，又，その治療はどうしたらいいかを検討します。もし生検を行なっていればその結果も診断の参考にします。胃に何の変化もない場合又は病変があっても良悪がはっきり診断される場合，検査は1回で終ります。病変がありそれがはっきり診断出来ない場合は，その部分を重点的に検査するために再度内視鏡検査を行なうことになります。

—患者側からみた胃内視鏡検査—

近医の胃内視鏡検査で病変を指摘され，再度微研病院で検査された方が，その著書の中で胃内視鏡検査を次のように記載されています。

『今日は微研病院で胃カメラを呑む日である。
約三週間前にA病院で胃カメラを呑んだので，
今日は比較的抵抗もなくスムーズに呑める。
唯胃カメラを呑む前に飲まされる薬と，のど

* 大阪大学助手（微生物病研究所附属病院外科）

にスプレイされる麻酔薬は幾度経験しても厭なものである。B先生と若い医局員の先生と二人で胃カメラ撮影である。カメラに影像が写るようになっているらしく，二人であっちだ，こっちだと話し合い乍らカメラを操作している。カメラが胃壁を突張る様な感じは，やはり感じいいものではない。

「ハイ！息を止めて！ジーッ，カチャリ。ハイ楽にして！」大体胃カメラ撮影の時は何所でも同じ様な言い方をする様である。A病院で撮った時も同じ様な言い方であった。B先生が，「後壁の方だよ。ウン，そこだ」と若い医局員の先生にアドバイスし乍ら，胃カメラを動かして次々と撮影しておられる。

「もう少しですから辛棒して下さい。ハイ息を止めて！動かないで！ジーッ，カチャリ！ハイこれで終りました。御苦労様でした。」』

—胃内視鏡検査を楽にする工夫—

しかしこの方のように冷静に検査を受けられる方は希で，一般的には胃内視鏡検査は非常に苦しい検査だと考えられています。それでも検査をより楽に受ける工夫もあります。

胃内視鏡検査は検査する側と受ける側に分れます。検査する側は胃を刺激しないようにできるだけやさしく，又いたずらに時間をかけないで検査を終えるよう努力せねばなりません。検査を受ける患者さんは，まず検査の前日暴飲暴食を避けて胃の状態をよくしておくことが第1条件です。第2は内視鏡検査を勧められた医師によく説明を聞いて，その検査がいかに自分に必要であるかを十分納得して検査を受けることです。第3は，これが一番大事なのですが，検査を担当する医師を信頼して全てを任せることです。担当医はX線写真を見，検査の目的，ポイント，及び患者さんの状態を頭に入れて検査を行なうのですから，　安心して検査を受けて下さい。医師と患者との信頼関係が，一般的に苦痛が強いと言われている内視鏡検査をより楽に，より速く，より正確に行なう大きな助けとなります。もちろん苦痛が非常に強い時，検査が長引く時は鎮静剤を使う場合もあります。

—おわりに—

今日，消化管の診断法はほぼ確立し，超早期の微小胃癌も発見，治療され，胃癌の治療成績は著しく向上しています。このような早期胃癌の診断には胃内視鏡検査，直視下生検による組織検査は必要不可欠な診断手技です。又胃ポリープの内視鏡的切除術，胃出血時の緊急内視鏡検査及び電気凝固又はレーザー光線を使っての内視鏡的止血法と検査の適応もどんどん広がっています。恐がらずに自分からすすんで内視鏡検査をうけ，正確な診断を得て，必要ならば正しい治療を受けられる様願っています。